

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：15401

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K20831

研究課題名(和文) 東南アジア・アフリカの教師教育者のアイデンティティに関する探索的比較研究

研究課題名(英文) Exploratory Comparative Study on Professional Identity of Teacher Educators in Southeast Asia and Africa

研究代表者

牧 貴愛 (Maki, Takayoshi)

広島大学・人間社会科学研究科(国)・准教授

研究者番号：80610906

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、未来の学校教員を育てる教師教育者(teacher educator)のアイデンティティについて、東南アジア諸国(タイ、カンボジア、ベトナム)とアフリカ諸国(マラウイ、ザンビア)を事例として検討したものである。その結果、いずれの国でも「研究者」と「教師の教師」の役割が主として求められること、また、それらの役割の求められ方には強弱があり、タイとベトナムでは大学院修了者＝「研究者」役割が強く求められ、カンボジア、マラウイ、ザンビアでは学校教員経験が必須＝「教師の教師」役割が強く求められることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来、欧州、中東を中心に行われてきた教師教育者に関する研究に対して、アジア、アフリカ諸国を対象としているところに新規性がある。また、教師教育者の公募文書の体系的な分析を通して求められる役割や専門性などについて一定の知見を導いたものである。併せて、アジア、アフリカ諸国の教師教育者を招いたウェビナーを定期的に開催することで、研究成果の実践への還元ならびに教師教育者のネットワーク構築に取り組んだ。

研究成果の概要(英文)：This study examines the identity of teacher educators who educate future school teachers, with case studies from South-East Asian countries (Thailand, Cambodia and Vietnam) and African countries (Malawi and Zambia). The results revealed that in all countries, the roles of 'researcher' and 'teacher educator' are primarily required and that there are variations in how these roles are required, with Thailand and Viet Nam strongly requiring postgraduate degrees, or the 'researcher' role, while in Cambodia, Malawi and Zambia, school teaching experience is essential, or the 'teacher of teachers' role.

研究分野：比較教育学

キーワード：東南アジア アフリカ 教師教育者 アイデンティティ 国際共同研究

1. 研究開始当初の背景

学校教育における授業改善は、従来、カリキュラムや授業などの研究が中心であったが、それらを具体的な実践に移す学校教員が注目され始め、世界各国の教師教育に関する比較研究が進められてきた。その後、2013年の欧州委員会報告書『よりよい学習成果のための教師教育者の支援』をひとつの契機として、学校教育の質を左右する学校教員の養成や職能成長を支える教師教育者の重要性が認識されるようになり、教師教育者の質を高める専門性開発 (professional development) は、海外の教師教育研究の主要テーマのひとつになっている。

教師教育者の専門性開発に関する研究は、欧州と中東を中心として進められてきた。これらの研究では、ライフストーリーやセルフスタディの手法を用いて個々の教師教育者の役割意識、職能成長の契機と課題や、先行研究の体系的な整理により、教師教育者の6つの役割、すなわち教師の教師、研究者、コーチ、カリキュラム開発者、ゲートキーパー、仲介者と役割ごとの行動特性、専門性開発の要素が明らかにされている。確かに、上述の先行研究からは、たとえば、欧州の教師教育者は、学校から高等教育機関への移行を経験し、高等教育機関の教員として求められる研究活動への取り組みに課題を抱えていることや、児童・生徒とは学び方の異なる教員養成課程の学生に教える、より正確には「教えることを教える (teaching about teaching)」難しさに直面していることがわかる。しかしながら、これらの個々の教師教育者に焦点を合わせた研究からは、どのように教師教育者の職能成長を支援するか、具体的な施策の整備の知見は得られない。

他方で、本研究の対象である東南アジア諸国ならびにアフリカ諸国は、いずれも遅れて近代化を始めた国々であり、国家あるいは国際協力のドナー (援助供与主体) 主導により、教育を含む社会基盤の整備がなされてきた。そのため、たとえば、東南アジアのタイにおける学校教員の専門職倫理などを所掌する組織も官製 (他律的組織) であり、ザンビアにおいても教員の専門性を確保するために法令が制定され、ザンビア教職審議会が設置されたり、国際協力機構 (JICA) 主導で授業研究が導入されたりしている。本研究の対象である東南アジア、東部アフリカ諸国における教師教育者の専門性開発は、他律的な専門職である点に鑑みて、ある種のトップダウン、他律的な制度・施策の整備が必要である。そこで教師教育者の職能成長を支える養成・採用・研修といったグランドデザインを念頭におきつつ、教師教育者のアイデンティティの解明に取り組む本研究を構想した。

2. 研究の目的

本研究は、未来の学校教員を育てる教師教育者 (teacher educator) のアイデンティティについて、東南アジア諸国 (タイ、カンボジア、ミャンマー) とアフリカ諸国 (マラウイ、ザンビア) を事例として検討するものである。「自らがどのような教師教育者であるか」という自己認識は、教師教育者の教授・研究指導といった行動や自らの職能開発への取り組みに対する意識を大きく左右する点において重要である。また、国・地域の社会・文化が教師教育者のアイデンティティに与える影響は大きいと言われている。本研究は、欧米諸国を対象とする従来の研究に、東南アジア、アフリカの事例を通して、新しい知見の提供をめざす。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、本研究では、次の4つの具体的研究課題に取り組んだ。すなわち (1) アジア、アフリカの教師教育者は、どのようなアイデンティティを有しているか。(2) 調査対象国における教員養成は、いずれの教育段階で、また、どのようなタイプの教員養成機関で行われているか。(3) 教師教育者の公募文書に記載されている学歴や職歴、また、その他の応募要件にはどのようなものがあるか。(4) とくに (3) の結果について調査対象国5か国の並置比較を通して見えてくる各国の特徴や共通点にはどのようなものか、である。

以上の具体的研究課題を解明するためにとった研究方法は、(1) については、調査対象国のうち東南アジア3か国を対象としたオンラインの質問紙調査の実施ならびに統計的分析、(2) については、調査対象国の教員養成についての基礎的な情報の整理、(3) については、ウェブサイトから入手可能な教師教育者の公募文書を収集、応募要件などの訳出、そして、(4) については、比較表を作成し、調査対象国の教師教育者の学歴、職歴、その他の応募要件などにみられる類似と差異の把握、である。

教師教育者の公募文書の収集は、国ごとに異なるが、研究代表者が自ら収集・分析したタイを除いて、現地の研究協力者の支援を得て入手し、日本語に翻訳した。なお、ザンビアについては、公募文書の入手が困難であったため、研究協力者が情報を集約した上で作成した他の国と同等の情報を用いた。さらに、研究代表者ならびに分担者は、調査対象国の全てを研究フィールドとしていないため、アジア、アフリカの教師教育者の専門性開発をテーマとするウェビナーを継続的に開催し、アジア、アフリカ諸国の教師教育者とのネットワーク構築に務めた。

なお、当初、上記の研究の目的を達成するために、調査対象の5か国の教師教育者を対象とした質問紙調査ならびに聞き取り調査を実施する計画であった。しかし、2019年暮れ以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大・継続に伴い、当初予定していた質問紙調査や聞き取り調査に

については、調査対象国の研究協力者等と相談し、部分的な実施に留めざる得なくなった。また、2021年2月1日に調査対象国のひとつであるミャンマーにおいてクーデターが発生したため、ベトナムに変更した。また、当初ルワンダを調査予定であったが、コロナ禍における調査研究の実行可能性に鑑みてザンビアに変更した。

4. 研究成果

上述の4つの具体的研究課題それぞれについては、次の一定の成果が得られた。

(1) 教師教育者の職業的アイデンティティを問う質問紙調査を設計したこと。従来、教師教育者についての研究は、セルフスタディやライフストーリーといった定性的な研究手法を用いたものが多かった。本研究では、教師教育者に関する先行研究の体系的な検討から導かれた6つの役割(教師の教師、研究者、コーチ、カリキュラム開発者、ゲートキーパー、仲介者)に対する認識を明らかにする質問紙調査を設計し、東南アジア3か国(カンボジア、タイ、ベトナム)を対象に実施した。定量的な統計的分析を行い、教師教育者の職業的アイデンティティは6つの役割に対応した多面的なものであることを解明した。

(2) 東南アジア、東部アフリカ諸国の教師教育者に求められる条件の一端を明らかにしたこと。新型コロナウイルス感染症の感染拡大・継続の影響によりフィールドワークを当初計画通りには実施できなかったが、大学教授職研究における公募文書を対象とした研究手法を援用して、調査対象国の教師教育者の公募文書を収集・分析することで、東南アジア、アフリカの教師教育者に求められる条件を明らかにし、関連学会で口頭発表を行うとともに、学術論文として刊行した。

東南アジア・アフリカ5か国の比較から明らかになったこととして、次の7点を指摘しうる。

第一に、5か国すべてにおいて、教員養成は、養成年限の長短はあるものの、高等教育段階で行われていること。つまり、5か国の教師教育者は、いずれも高等教育機関の教員であり、教員養成に従事する者の役割に加えて、高等教育機関の教員の役割を果たすことも期待されている。

第二に、教師教育者の呼称は、5か国中、カンボジアの教員養成大学においてのみ積極的に使用されていること。新しい用語であり、現地語としても定着していない。今後、何をきっかけに定着するか引き続き注視したい。

第三に、教師教育者に求められる学歴資格は、博士の学位が必須であるタイを除き、学士、修士と幅広い学歴資格が設定されていること。これは、各国の高等教育、とりわけ大学院の設置状況などを反映している。

第四に、職歴については、タイ、ベトナムを除く、カンボジア、マラウイ、ザンビアでは、学校教員としての勤務経験が求められていること。先述の通り、教員養成は、高等教育機関において行われていることから、研究活動への従事は、ある意味、5か国に共通する事項であろう。他方で、学校教員としての勤務経験が求められている国にあっては、教師教育者は「教師の教師」としての役割がより強く求められていると考えることができる。

第五に、その他の要件は様々ではあるが、たとえば、タイ、カンボジア、ベトナム、ザンビアでは、懲戒処分や倫理・道徳への言及があり、教師教育者の人間的側面が重視されていること。同様に、英語運用能力への言及も共通して見られること。ただし、アフリカは東部2か国のみのデータであり、これらの要件が、東南アジア、東部アフリカに共通している、とは言い切れず、今後、調査対象国を増やして、同様の分析を行う必要がある。

第六に、選考方法については、タイとベトナムでは筆記試験と模擬授業、面接が課されていること、他方で、マラウイとザンビアは書類選考と面接のみであり、模擬授業が課されていないこと。模擬授業の有無は、学校教員としての勤務経験という要件の有無と対応している。タイとベトナムでは学校教員としての勤務経験が求められていない。したがって、模擬授業で授業力を確認する必要があると考えることができる。

第七に、初任給は、ベトナムを除いて、各国の平均的な収入に比べると若干ではあるが高く設定されている。なお、給与額については、実際の教師教育者の労働・生活時間の実態やキャリアパスを踏まえたさらなる分析が必要である。

以上の比較分析からは、調査対象5か国のいずれにおいても「研究者」としての役割と「教師の教師」としての役割が見られること、また、これらの役割の求められ方には強弱、グラデーションが見られることが明らかになった。具体的には、博士学位の所持といった要件が求められるタイでは「研究者」としての役割が強く求められている。他方で、カンボジア、マラウイ、ザンビアでは、研究活動への従事が要件として明記されているものの、学校教員としての勤務経験が求められている点において「教師の教師」としての役割がより強く求められていると考えることができよう。「研究者」としての役割が強く求められるタイ、「教師の教師」としての役割が強く求められるカンボジア、マラウイ、ザンビアを両端にとると、ベトナムは、その間に位置づいている。以上の考察から、教師教育者の専門性開発の方向性としては、次のような作業仮説を導きうる。たとえば、「研究者」としての役割が強く求められるタイでは、我が国の研究者養成を経た教師教育者に似て「教師の教師」としての役割を果たす際に難しさに直面することが想定される。そのため、たとえば授業力の向上、メンタリングなど学生指導に関わる研修等が必要である。逆に「教師の教師」としての役割が求められるカンボジア、マラウイ、ザンビアでは、学校教員として勤務する際には求められることのなかった研究活動への従事が新たに求められることになる。そのため、研究活動をサポートする施策を講じることが重要になるであろう。今後は、各国における既存の専門性開発の制度・施策の実態解明を行うことで、上述の作業仮説を検証する

必要がある。

(3) アジア、アフリカ諸国の教師教育者を対象とした専門性開発ウェビナーを継続的・定期的
に開催し、本研究から得られた知見の共有ならびにネットワーク構築を行ったこと。2020年9
月の第1回ウェビナーを皮切りに、2023年3月に第9回を開催した。毎回、30~40名程度、ア
ジア、アフリカ諸国からの参加があった。登壇者は、本研究の研究協力者や研究代表者の勤務先
の修了生を通して、アジア、アフリカの多様な国々から招聘することができた。同ウェビナーを
きっかけとして、研究代表者は、ウェビナー登壇者(南アフリカ、ケープペニンシュラ工科大学
の研究者)との国際共同研究に着手した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 牧 貴愛、下田 旭美、塚脇 涼太	4. 巻 3
2. 論文標題 東部アフリカの教師教育者の応募要件：マラウイとザンビアの比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 280～286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/53404	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 平田 仁胤	4. 巻 182
2. 論文標題 19世紀末イギリスにおけるヘルバルト学派の受容 「ヘルバルトの教育の科学および実践への入門」に注目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	6. 最初と最後の頁 87～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/bgeou/64985	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 岡花 祈一郎、国吉 和美、長嶺 久美子、仲村 小百合、永山 勝幸、猶原 和子、佐藤 寛子、塚原 健太	4. 巻 102
2. 論文標題 地域ネットワークを活かした保幼小接続の取組み 沖縄県八重瀬町保幼小連携プロジェクトの成果と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 琉球大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 85-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 下田 旭美、牧 貴愛	4. 巻 44
2. 論文標題 海外から見た高専の特徴 東南アジア諸国との予備的比較分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島商船高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 7～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32221/hiroshimashosenkiyo.44.0_7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 下田旭美、牧貴愛	4. 巻 28
2. 論文標題 高専教育制度に関する学会誌論文の質的データ分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本高専学会第28回年会講演論文集	6. 最初と最後の頁 85～86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下田旭美ほか6名	4. 巻 45
2. 論文標題 現代史シリーズ - 東南アジア タイ - タイの産業発展と職業教育の現代史	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島商船高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 107～113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下田旭美	4. 巻 45
2. 論文標題 タイにおける高専教育モデルの展開 パイロット校での5年目の取り組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 広島商船高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 99～106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧 貴愛、平田 仁胤、岡花 祈一郎	4. 巻 2
2. 論文標題 東南アジアの教師教育者に求められる条件 : タイ・カンボジア・ベトナムの公募文書の比較研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究	6. 最初と最後の頁 268～276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/51637	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧 貴愛、下田 旭美	4. 巻 2
2. 論文標題 タイにおけるへき地教員養成の展開：「公正な教育のための基金」による事業を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要．教育学研究	6. 最初と最後の頁 277～283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/51638	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧貴愛	4. 巻 1
2. 論文標題 タイにおける「研究に基礎を置く」教員養成の制度的基盤：実践研究を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要．教育学研究	6. 最初と最後の頁 246-255
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/50206	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧貴愛・大森万理子	4. 巻 1
2. 論文標題 タイにおける「公正な教育のための基金」による格差は正措置に関する予備的検討：福祉としての教育の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要．教育学研究	6. 最初と最後の頁 256-265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/50207	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧貴愛	4. 巻 7
2. 論文標題 タイにおける私立高等教育に対する国家関与 高等教育関係法規の分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育論叢	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧貴愛	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 タイにおける基礎教育改革と中等学校をめぐる格差 「分を知る」社会の二者間関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32204/jids.29.2_21	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡花祈一郎・増澤拓也・三田沙織・中尾達馬・淡野将太・國吉真哉・浅井玲子・村上呂里・高橋美奈子・吉田悦治・小川由美	4. 巻 98
2. 論文標題 幼稚園教諭養成における 保育内容の授業構成に関する基礎的研究 - 『領域に関する専門的事項』の内容の検討 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 琉球大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 127 - 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下田旭美・牧貴愛	4. 巻 43
2. 論文標題 海外から見た高専の特徴 予備的比較分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島商船高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件(うち招待講演 1件/うち国際学会 9件)

1. 発表者名 牧 貴愛、下田 旭美、塚脇 涼太
2. 発表標題 アフリカの教師教育者に求められる条件 マラウイ・ザンビアの比較研究
3. 学会等名 日本教育学会第81回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 牧 貴愛
2. 発表標題 ラーチャバット大学に関する基礎的研究 関係法規の通時的分析
3. 学会等名 第6回東南アジア教育研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 牧 貴愛
2. 発表標題 State Involvement in Teacher Education in Thailand: A Japanese Thai education researchers' perspective
3. 学会等名 The 14th International Conference on Thai Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nozomi Sakata, Masayasu Sakaguchi, Asami Shimoda, Takayoshi Maki
2. 発表標題 National Agenda for ICT in Education: A Comparative Analysis between South Africa and Japan
3. 学会等名 The 29th Japan Society for Africa Educational Research Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 牧 貴愛
2. 発表標題 タイにおける「教育イノベーション地区」に関する予備的考察
3. 学会等名 日本比較教育学会第58回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 牧貴愛
2. 発表標題 タイにおける教師教育者の人事制度 公募文書を手がかりとして
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧貴愛、平田仁胤
2. 発表標題 カンボジア教師教育者の人事制度に関する予備的考察
3. 学会等名 日本教育学会第80回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧貴愛
2. 発表標題 Exploring Changes in Thai Teacher Professional Standards and their Implications
3. 学会等名 12TH CESA BIENNIAL CONFERENCE KATHMANDU 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧貴愛
2. 発表標題 Potential Challenges of Rural Teacher Education in Thailand
3. 学会等名 12TH CESA BIENNIAL CONFERENCE KATHMANDU 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Maki, T., Hirata, Y., Okahana, K., Tsukawaki, R., Shimoda, A., Sophorn, S., and NGUYEN Thi Lan Ngan
2. 発表標題 Exploratory Comparative Study on Teacher Educators Professional Identity in Southeast Asian Countries
3. 学会等名 2nd Biennial Conference of Comparative Education Society of Cambodia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Maki, T., Hirata, Tsukawaki, R.
2. 発表標題 Comparative Study on Teacher Educators' Expected Roles in African and Southeast Asian Countries
3. 学会等名 The 5th Webinar on Teacher Educators Professional Development (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kiiichiro Okahana
2. 発表標題 International Research Collaborations on Teacher Education in Japan
3. 学会等名 Improving the quality and quantity of research articles through international research collaborations. Universitas Negeri Padang. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧貴愛
2. 発表標題 岐路に立つタイの教員養成 教職基準とカリキュラムに見られる変化
3. 学会等名 これからの「教育」の話をしよう 第24回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takayoshi Maki
2. 発表標題 Who are we? and How do we want to be? A Japanese teacher educator's perspective
3. 学会等名 Professional Development of Teacher Educators: Cases from Africa and Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 牧貴愛・大森万理子
2. 発表標題 タイにおける「公正な教育のための基金」による格差是正措置 福祉としての教育の観点から
3. 学会等名 第4回東南アジア教育研究フォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mariko Omori, Takayoshi Maki
2. 発表標題 Professional Development of Japanese Teacher Educators
3. 学会等名 Professional Development Challenges facing Teacher Educators (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takayoshi Maki
2. 発表標題 Background of the Webinar
3. 学会等名 Teacher Educators' Professional Development (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 鴨川 明子、牧 貴愛、須藤 玲	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 184
3. 書名 若手研究者必携 比較教育学のライフストーリー	

1. 著者名 七木田 敦、上村 眞生、岡花 祈一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 教育情報出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 子ども家庭支援論	

1. 著者名 平田仁胤（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 258
3. 書名 新・教職課程演習<第1巻> 教育原理・教職原論	

1. 著者名 平田仁胤（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 247
3. 書名 新・教職課程演習<第7巻> 道徳教育	

1. 著者名 平田仁胤(分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 229
3. 書名 新・教職課程演習<第2巻> 教育史	

1. 著者名 馬場 卓也、清水 欽也、牧 貴愛編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ブックウェイ	5. 総ページ数 290
3. 書名 国際教育開発入門	

1. 著者名 大塚豊監修、牧貴愛編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 160
3. 書名 アジア教育情報シリーズ 2巻 東南アジア編	

1. 著者名 Mayaka Hida, Takayoshi Maki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Axiom Academic Publishers	5. 総ページ数 438
3. 書名 Chapter 9 Retrospect and prospect on Japan's education in an age of uncertainty In World Education Systems. Entering the 21st Century	

1. 著者名 岡花祈一郎（細尾萌子、柏木智子編集代表）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 408
3. 書名 「合同行事」「接続期カリキュラム」「学びの芽生え」「自覚的な 学び」「学びの連続性」小学校教育用語辞典	

1. 著者名 下田旭美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ブックウェイ	5. 総ページ数 286
3. 書名 「第4章 教育は社会の平等化に貢献しているか、それとも格差を再生産しているか」『国際教育開発入門 フィールドの拡がりと深化 』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>教育人材開発論研究室 https://www.maki.hiroshima-u.ac.jp/ アジア太平洋・アフリカ教師教育協力プロジェクト研究センター https://apatec.hiroshima-u.ac.jp/ 広島大学大学院人間社会科学研究科 https://www.hiroshima-u.ac.jp/gshs/news/69716 リサーチマップ https://researchmap.jp/maki-thai?lang=ja 東南アジア・アフリカの教師教育者のアイデンティティに関する探索的比較研究 https://researchmap.jp/maki-thai/%E7%A7%91%E7%A0%94%E8%B2%BB%EF%BC%882020%E5%B9%B4%E5%BA%A6%EF%BD%9E%EF%BC%89 APATEC2 https://apatec.hiroshima-u.ac.jp/members.html</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平田 仁胤 (Hirata Yoshitsugu) (50582227)	岡山大学・教育学研究科・准教授 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡花 祈一郎 (Okahana Kiichiro) (50512555)	琉球大学・教育学部・准教授 (18001)	
研究分担者	塚脇 涼太 (Tsukawaki Ryota) (60599702)	比治山大学・現代文化学部・准教授 (35410)	
研究分担者	下田 旭美 (Shimoda Asami) (80812784)	広島商船高等専門学校・その他部局等・准教授 (55402)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ゴンドウィ フォスター (Gondwe Foster)		
研究協力者	ムシャニ マーシー (Mushani Mercy)		
研究協力者	ソポーン ソベック (SOPHORN Sopheak)		
研究協力者	ンギエンティ ランガン (Nguyen Thi Lan Ngan)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計8件

国際研究集会 The 7th Teacher Educator Professional Development Webinar	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 8th Teacher Educator Professional Development Webinar	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 9th Teacher Educator Professional Development Webinar	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 The 5th Webinar on Teacher Educators Professional Development	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 The 6th Webinar on Teacher Educators Professional Development	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Professional Development of Teacher Educators: Cases from Africa and Asia	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Professional Development Challenges facing Teacher Educators	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Teacher Educators' Professional Development	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
マラウイ	University of Malawi	Ministry of Education		
タイ	Kasetsart University	Phranakhon Rajabhat University		
ケニア	Muranga University of Technology			
ベトナム	Can Tho University			
ザンビア	University of Zambia			
バングラデシュ	Ministry of Primary and Mass Education			
インドネシア	Universitas Negeri Semarang			
カンボジア	National Institute of Education	Phnom Penh Teacher Education College	Takeo Regional Teacher Education Center	他3機関
ミャンマー	Lashio Education College	Hpa-An Education College		